



2026 AUTOBACS SUPER GT Round 4 FUJI GT 300km RACE

AUGUST.1 - 2 Qualify : 27th / Race : 23th

ノームスの戦いを展開するも、悪夢のような週末に



4月に行われた第1戦岡山では、パーフェクトなポール・トゥ・ウィン。5月の第2戦富士では、サクセスウェイトを積みながらも好レースを展開し7位と、開幕2戦で好ダッシュをみせたD'station Racing。ランキング首位のままシリーズの勢いを繋げたいところではあったが、2026年のSUPER GTは第3戦マレーシアが延期になったことから、約3ヶ月間のインターバルがあった。

季節はその間に夏となり、迎えた第4戦はふたたび富士スピードウェイを舞台として、8月1日(土)に幕を開けた。

気温31度/路面温度44度というコンディションのもと、午前10時30分から始まった公式練習で、D'station Vantage GT3はまずは藤井誠暢からステアリングを握りコースインした。これまでSUPER GT復帰後から、D'station Vantage GT3はセットアップをしっかりと煮詰めており、完成形に近い状態。昨年の優勝、さらに第2戦富士の結果から見ても、セットアップはしっかりと定まっている。もちろん大きく変化した気温にもしっかり対応しており、今季ここまで好パフォーマンスを示してきたダンロップタイヤの性能も高い。ただ、藤井をもってしてもタイムが伸びない。藤井は6周を走りファグに交代し5周を走ったが、ベストタイムは1分39秒737というもの。気温が

違うとはいえ、第2戦富士の公式練習より1秒以上遅い。しかも第2戦の公式練習ではタイヤが合っていない状況だった。

午後の公式予選に向け、チームはなんとか対策を行いたいところではあったが、気温32度/路面温度45度というコンディションで午後2時20分から始まった公式予選でも状況は変わらない。Q1のA組から出走した出走したファグは、1分38秒623というタイムを記録したものの、Q2進出にはまったく届かない14番手。バランスも良く、タイヤのパフォーマンスもあるがタイムだけが出ない。D'station Vantage GT3にとっては厳しい週末となっていた。

明けて8月2日(日)の決勝日は、午後には雨の天気予報も出ていた。ウォームアップ走行が始まった午後0時には、雲が出ていたものの、雨の気配はまだなかった。

D'station Racingにとっては、苦境を打開するためにも雨が絡むなどレース展開を変えるような不確定要素が欲しかった。

なんとか入賞圏内までに追い上げるためにも雨が降ってほしいところではあったが、そんな願いが通じたか、午後1時過ぎにグリッドウォークが始まるころには、富士スピードウェイに強い雨が降りはじめた。

路面はウェットコンディションに転じることになったが、気温34度/路面温度47度というコンディションのもと迎えたスタート直前には、一気に晴れ間が広がり、路面が乾きはじめてしまった。D'station Vantage GT3もスリックタイヤに換装し、セーフティカースタートに臨んだ。

セーフティカーは5周目に退去したが、直後GT500車両のアクシデントで赤旗中断に。午後2時15分のレース再開後、スタートを務めた藤井は27番手から追い上げを図るも、やはりスピードに苦しんでしまう。後方からはレインタイヤから交換を行った#61 BRZが迫るが、為すすべなくオーバーテイクされてしまった。

藤井は35周まで粘りの戦いを続け、ファグに交代。ピット作業もノームスでD'station Vantage GT3を送り出し、ファグも懸命のドライブで追い上げを図ったが、無情のラップダウンとなってしまった。バランスの良さはレースでも変わらなかったが、決定的に速さを欠く週末となってしまった。

終わってみれば、D'station Vantage GT3の順位は23位。ポイント獲得にはまったく届かないまさかの第4戦となってしまった。

第5戦鈴鹿は3週間後。この苦境を脱し、今回取りこぼしたポイントを取り返すべく、D'station Racingは準備を進めていく。



COMMENTS :



Team Owner : Satoshi HOSHINO

第1戦岡山での優勝、そして第2戦富士での7位と、良い結果を続けてチャンピオン争いをリードしながら臨んだ第4戦でしたが、まさかのレースウィークになってしまいました。スーパー耐久との連戦でしたが、チームのメンバーもすごく良い仕事をしてくれましたし、ドライバーもピット作業もまったくノーマスだったので、なぜこのよう

な結果になってしまったのか不思議でなりません。しっかり原因を探りたいと思います。これほど厳しいレースを見ることになったのは本当にひきびきですし、今はなかなか言葉が見つからないですね。ドライバーたちにとっても可哀想なレースになってしまいました。鈴鹿では改善できるようにしていきたいと思います。



Director : Kazuhiro SASAKI

昨年この夏の富士スピードウェイでのレースは、2レースともに完勝を飾っていましたが、今年もゴールデンウィークの第2戦は良い戦いができていたので、この第4戦も本当に楽しみにしていたんですけどね。ふたを開けて見たら、公式練習からまったくタイムが出ないですし、公式予選でもファグ選手が良い走りをしてくれたのに27番

手という結果で、本当に驚きました。決勝レースではスタート直前に雨が降ったりしたので、うまく味方につけられないかとも思ったのですが、結果的には良い方向には進みませんでした。藤井選手、ファグ選手とも前からどんどん離されるばかりで、悲しい気持ちになりました。次の鈴鹿ではこんなことがないように願っています。



Supervisor : Tetsuya TANAKA

とにかく今回は厳しいレースウィークになってしまいましたね。公式練習からスピードはありませんでしたし、公式予選でもQ1突破はならず27番手と苦しい位置になってしまいました。決勝レースに向けては雨の天気予報もあったので、なんとか展開をうまくつかんでポイント獲得を目指しましたが、それは実現できませんでした。

今回は週末を通じて非常に厳しい週末を送ることになりましたが、またすぐ3週間後には鈴鹿サーキットで第5戦がやってきます。今回の第4戦で苦戦した原因を短い間でしっかりと解析していきたいですし、鈴鹿サーキットは初優勝も飾ることができた験の良いサーキットです。なんとかまた前を走ることができるように頑張ります。



Driver : Tomonobu FUJII

D'station Racingとしては、昨年も優勝を飾っていますし、得意としている富士スピードウェイでのレースでした。セットアップも昨年からの実績がありますし、タイヤも今年の良いものを盛り込んだものを持ち込み、通常であればパフォーマンスがあるサーキットだと思っていたのですが、ちょっと原因は分かりませんが、公式練習から下位

に沈むことになってしまいました。昨年のデータと比較しても、1周2秒遅かったです。決勝レースもベストを尽くし、チームもタイヤもドライバーもミスなく戦いましたが、やはり1周2秒ほど上位陣とは差がありました。チームとして、何が足りないかをよく見つめ直して、次の鈴鹿でのレースに臨みたいと思っています。



Driver : Charlie Fagg

この第4戦のレースウィークは、僕がSUPER GTに参戦した中でも最も厳しい週末だったと思うよ。ただ、チームには本当に感謝している。クルマのバランスも完璧だったし、ピットストップも完璧だった。またダンロップタイヤもいつものように素晴らしい仕事をしてくれて、完璧なタイヤを用意してくれたと思う。チーム、ダンロップみんな

がミスなくレースを進めることができたと思っているんだ。でも、今日はこの結果が限界だった。みんなが素晴らしい仕事をして、チャンピオンシップをリードしてきたにも関わらず、まともにレースを戦うことができなかったの、本当に残念だよ。悔しいけど、鈴鹿でまたトップ争いに加われることを願うばかりだね。

